

SAN-Ai

社会医療法人 三愛会 広報誌「さんあい」

Vol.21



covid
19/20
months
未知の脅威に抗った日々。



社会医療法人 三愛会 広報誌「SAN-Ai」Vol.21 (2021年10月1日発行)

発行元/〒870-1151 大分市大字市1213番地 TEL.097-541-1311 社会医療法人 三愛会 大分三愛メディカルセンター 広報委員会

社会医療法人 三愛会/www.san-ai-group.org/ 三愛総合健診センター/www.kenkou-oita.com

※表紙写真は2021年7月にモデルを起用し撮影したもので、誌面の内容と関連はありません。

7.28	6.9	5.7	4.16	4.6	4.1	2020	3.15	3.20	3.3	2.20	2020	2019
再開 陽性者受け入れの 三愛 大分県で 陽性者確認 98日振りに 大分県での コロナ入院患者数が ゼロになる	大分県で コロナ入院患者数が ゼロになる	発熱検知のための サーモグラフィーを 設置	大分県で 初の死者	病院外に ブレハブを設置し、 かぜ外来を本格化	三愛 陽性患者の入院 受け入れ開始 (最大4床)	大分県内	かぜ外来 運用開始	大分県で 九州初の クラスター発生	大分県で 初の感染者	数多くの イベント中止・ 延期を決定	三愛 日本での感染 確認	中国・武漢市より 原因不明の 肺炎患者の報告
7.29	7.28	6.29	6.28	6.19	5.25	5.20	4.18	4.16	4.7	3.29	3.24	世界・日本
全国道府県で 感染者確認 超える を超える 国内の1日の 新規感染者数 1000人を 超える	国内の死者 50万人を超える 1000人を 超える	世界の死者 1000万人を 超える	世界の感染者数 1000万人を 超える	県境をまたぐ 移動自粛を解除	緊急事態宣言解除 全国で	夏の全国高校野球 戦後初の中止	緊急事態宣言、 全国へ拡大	7都道府県へ 緊急事態宣言発令	東京オリンピックの パラリンピックの 延期を決定	WHOが 「Covid-19」と命名	2.11 2.1 1.16 1.9 1.7 12.8	中国で初の死者 原因が新種の コロナウイルスで あることを確認 された

目前に迫る「コロナ」。入院受け入れ開始。



発熱者用に設置したプレハブ(現在3基)。



雨天時 防護服の上に会羽を着てかぜ外来の対応を行う



車内待機の発熱患者に対する臨床検査技師

「かぜ外来」を始めたのは、2020年3月15日。発熱者と通常患者を分

た。あちらこちらで「発熱者は診ない」「発熱者ならば、救急車は受けられない」といった事態が起ころりぬめていた。「熱があるんですが、診ても

だ、現在の世界状況を想像できた考
はいなかつただろう。

関東を中心に、徐々に陽性者数が
拡大していた2月20日。福岡県で初
の陽性者が確認された。その日は、注
人設立50周年を控える大分三愛メ
ディカルセンターでも、いくつかの事業
を延期・中止と決めた日でもあった。
大分県で発生するのも時間の問題
いち早く病院の方針を議論し始め
る。当然ながら、多くの意見は簡単な
はまとまらなかつた。3月3日午後
初の陽性者確認というニュースが県内

ようには、日本人にとっては「世界のどこで起こっている」こと。そんな些細な第一印象の中では、我々は「新型コロナウイルス」というものを認識していた。

その患者は、2020年1月16日に「日本国内1例目」と称された過熱してゆく報道。2月上旬に大型クルーズ船での集団感染が発覚した時には、すでに一部の医療関係者の脳裏には「感染症蔓延」という言葉がござつて、それでもこの頃にはほとん

中国・武漢からのニュースが日本でも本格的に取り上げられ始めたのは、2020年に入つてからだつたまさに“対岸の火事”。2002年SARS、2012年MERS

らえるのでしょうか?」。病院の受付には、これまでにはなかつた相談が寄せられるようになった。

かぜ外来で初めて陽性者を確認したのは4月中旬。県へ依頼したPCR検査の結果連絡を受け、院内は一時的に混乱に陥った。今でこそ、なぜ外来での受診者総数は2,000名に迫り、病院が外来で確認した陽性者数は60名を上回る。第3～4波の頃になると、陽性者が現れるのは日常茶飯事となつた。しかし、当時は初めての「今そこにあるコロナ」。感覚的防護は万全であつたと思われたが、確証は持てず、接触スタッフは念のため自宅待機とした。「本当にこの運営体制で安全なのか?」議論が再燃し、不安は払拭できなかつた。それでこそ、発熱者の来院は後を絶たない。直

against / COVID-19

感染対策には「換気」が大切。大分三愛メデカルセンターでは、独自に県内外の著名人・声優・ラジオDJ20名以上に「換気しましょう」のナウンスボイスを収録依頼。スタッフのちょっとした楽しみに。その豪華さゆえ「めざましテレビ」など多くのテレビ番組で取り上げられました。

ナレーター：北野JJK順一さん・井門宗之さん（ラジDJ）、三遊亭円楽さん（落語家）、鈴村健一さん（声優）、岩崎朋美さん（レポーター）など



大分県内												世界・日本						
12.31	12.29	12.28	12.25	12.8	11.29	11.28	11.16	11.13	2020	10.24	10.16	10.6	8.31	8.18	8.15	8.7	8.9	2020
12.31	12.29	12.28	12.25	12.8	11.29	11.28	11.16	11.13	2020	10.24	10.16	10.6	8.31	8.18	8.15	8.7	8.9	2020
12.31	12.29	12.28	12.25	12.8	11.29	11.28	11.16	11.13	2020	10.24	10.16	10.6	8.31	8.18	8.15	8.7	8.9	2020
12.31	12.29	12.28	12.25	12.8	11.29	11.28	11.16	11.13	2020	10.24	10.16	10.6	8.31	8.18	8.15	8.7	8.9	2020
12.31	12.29	12.28	12.25	12.8	11.29	11.28	11.16	11.13	2020	10.24	10.16	10.6	8.31	8.18	8.15	8.7	8.9	2020

終わりの見えない「禍」、折れようとする心。



11月末、陽性者発生時の病棟。



ゾーニングを指示する医師・薬剤師。



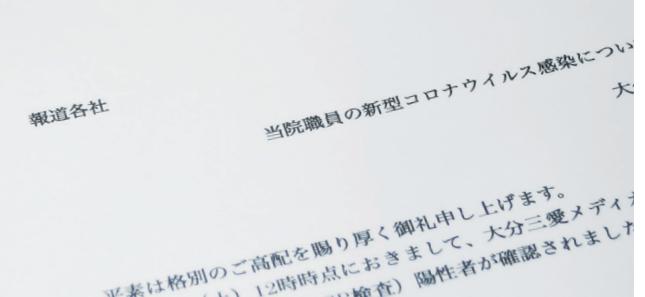
10月6日、第2波時期最後の陽性患者の見送り。



コロナが発生している病棟での業務継続。



スタッフのPCR検査のための検体採取。



院内感染発生時のプレスリース。



院内発生対策会議で指揮を執る院長・森 義顕。

2020年夏。「第2波」が到来し、かぜ外来に入院受け入れと、相変わらず病院では目まぐるしい日々が続いていた。保健所からの突然の連絡は8月14日。退院した患者が濃厚接触者となり、検査の結果、陽性がわかった。至急、事実確認を行ったが、行政の判断は「濃厚接触者なし」。それでも検査部は、念のため、接觸のあつた10数名のスタッフのPCR検査を行った。

8月15日土曜日、午前11時。病棟スタッフ1名の陽性が確認された。すぐにすべての部署長が参集し、緊急会議が始まる。遂に訪れた「院内感染」。ほとんどのスタッフが、的確な判断を下せる心理状態ではなかった。未だ明確な対処方法などなかつた頃。すぐさま決定したのは「外来・入院・救急受け入れの停止」。何が正しいのか不明瞭ながらも、まず考えるのは「地域を巻き込んではならない」ということ。可能な限り、リスクを避けていくしかなかつた。

三愛会創立50年の歴史で初めてとなる、一週間の外来停止。静まり返る病院内は、防護具に身を固めたスタッフの足音のみが響く。発生翌日の朝9時、病院はホームページ上で事実を公表した。患者をはじめ、さまざまな関係者への連絡。一般的の入院患者、そして受け入れ中のコロナ陽性患者への看護。スタッフは収束を信じ、戸々と業務にあたつた。しかし、感染力は面会禁止も継続した。

それでも波はまた迫る。すぐに再流行は始まり、11月中旬より大規模なクラスターが頻発するようになつた。瞬く間に増えていく陽性者数。病院のコロナ病床もすぐに埋まつた。当初4床程度だったベッド数を10床近くまで拡大し、可能な限りの患者を受け入れた。これまでの経験をもとに、厳しいながらも運営に安定感を醸し出してきていた矢先だった。

11月末、一般の入院患者が発熱。PCR検査により陽性が判明した。感染経路を確認し、「受け入れ陽性患者からの感染を起こしてしまった可能性が高い」という判断がなされた。後日の調査では、接触の事実がない結論に至ったのだが、当初は「院内での感染対策の不備」と捉えられた。

それが、張り詰めきついた緊張の糸を刺激した。半年以上最前線で闘う看護師たちの疲労はピークを迎えた。感染拡大には至らなかつたが、コロナ病棟看護師1名にも陽性が判明。「コロナに負けるな」。そんなスロー

against / COVID-19 伝えることで、闘っていく。

クラスター収束後、病院はあえて広報誌で感染発生時の様子を特集。世間的には未だコロナ発生の現状を表に出すことが多くなかったが、県内外の多くのメディアに取り上げられました。



伝えている。

これが、張り詰めきついた緊張の糸を刺激した。半年以上最前線で闘う看護師たちの疲労はピークを迎えた。感染拡大には至らなかつたが、コロナ病棟看護師1名にも陽性が判明。「コロナに負けるな」。そんなスロー

病院はホームページや広報誌(次頁参照)、メディア出演などで、この時の状況について事細かに説明している。決して院内の怠慢や不備によって感染が拡大したのではなく、発熱者担当していたからこそ、いつかは起こうってしまうと覺悟していたこと。何一つ後ろめたいことはない。そこに確固たるものがあつたからこそ、ほぼすべての情報報を堂々と公開するに至つている。

対策に対策を重ねた結果、感染は当該病棟の中のみで抑え込まれていた。8月25日、火曜日。前日の三愛総合健診センターの再開に続き、病院は外来患者の診療を開始した。いつものように、患者が診察室のドアをノックする。そんな当たり前のことが貴重な時間のように思える、気持ちよく晴れた夏の一日だった。

予想を上回り、8月19日までに計6名(スタッフ3名・入院患者2名・元入院患者1名)の陽性が確認され、県はクラスターとして認定した。未体験・未知の事態。スタッフの精神・身体的ストレスは極限に迫りつつあり、これが、張り詰めきついた緊張の糸を刺激した。半年以上最前線で闘う看護師たちの疲労はピークを迎えた。感染拡大には至らなかつたが、コロナ病棟看護師1名にも陽性が判明。「コロナに負けるな」。そんなスロー

2021年4月の世界と日本										2021年4月の大分県内									
4.30	4.29	4.21	4.15	4.13	4.1	3.21	3.8	2021		2.23	2.3	1.29	1.22	1.8	1.1	2021	大分県内		
大分県医師会が緊急会見で医療逼迫を訴え	大分駅前開設	大分県医師会が緊急会見で医療逼迫を訴え	抗原検査センターが開設	大分県内でカラオケを要因とするクラスター発生（6月まで）	大分県内で高齢者向けワクチンの接種を開始	県内施設内の高齢者向けワクチンの接種を再開決定	陽性者受け入れ再開決定	三愛	三愛	大分県で斯塔ーフォーチュン接種を開始	大分県で斯塔ーフォーチュン接種を開始	大分県でのクラスター発生のサポート	大分県での陽性者が累計超える	県が不要不急の往来自粛を要請	年末始もかぜ外来を開設し対応	三愛	大分県内		
4.26	4.25	3度目の緊急事態宣言を発令	国内の死者1万人を超える	インド型の変異株を確認	国内で高齢者への優先接種が始まる	2度目の緊急事態宣言を解除	緊急事態宣言	3月21日まで延期を決定		県内ワクチン先行接種開始（医療従事者）	県内すべての福祉施設へ抗原検査キットの配布を発表	クラスター発生のサポート	1,000人を超える	年末始もかぜ外来を開設し対応	往来自粛を要請	年末始もかぜ外来を開設し対応	大分県内		
国内で初確認	国内の死者1万人を超える	インド型の変異株を確認	3度目の緊急事態宣言を発令	国内で高齢者への優先接種が始まる	2度目の緊急事態宣言を解除	緊急事態宣言	3月21日まで延期を決定		日本でのワクチン接種開始（医療従事者）	世界のワクチン接種者が1億人を超える	クラスター発生のサポート	5,000人を超える	国内の死者が初めて1,000人を超える	2度目の緊急事態宣言を発令	年末始もかぜ外来を開設し対応	世界・日本			

変容するウイルスの脅威。



高齢のコロナ患者に声をかけ励ます。



より高度な治療を受けるための転院搬送



病院スタッフへのワクチン接種



・ワクチン接種の準備を行う薬剤師

2021年3月。県内では新規陽性者がひと月で15名程度と、落ち着いた春を迎える情勢となつた。同時期、満を持してやつてきた「コロナウイルスワクチン接種」。3月上旬から大分三愛メディカルセンターでもスタッフへの接種が始まつた。これは、一般市民への接種のリハーサルともなる。この段階から綿密な接種運営計画がねまつた。これもまた新たな体験。ワクチンを打つ方にも打たれる方にも緊張感が走る。副反応対策に苦慮したものの、続きゆくコロナ対応最前線の機関として、大きな一步を踏みしめた瞬間でもあつた。

遂に1日で100名を超える陽性者数が発表され、次々にやってくる患者は、ほとんどが肺炎を持ち、酸素吸入などが必要な容態、「軽症者用病院」を謳っていた大分三愛メディカルセンターは、いつの間にか「中等症以上の患者」を受け入れる病院となつていた。

4床から受け入れを再開したもののは、瞬く間に満床に。行政からは当然のように病床拡大の依頼があり、数日後には、常時8床前後の患者が収容され続ける状況が常態化した。深刻なことに、症状の重さによって必然的に入院期間が長くなってしまい、患

against / COVID-19 多くの支援に励まして。

続くコロナ対応の中、続々と届く地域の方々・企業からのさまざまな支援。差し入れの食べ物や飲み物、医療資源物資、そして小さな子どもたちからの純粋無垢な応援。その声は温かく、私たちの背中を押してくれています。



を予見。さらなる受け
を指示した上で会見
状況を切実に訴えた。

遂に1日で100名を超える陽性者数が発表され、次々にやってくる患者は、ほとんどが肺炎を持ち、酸素吸入などが必要な容態。「軽症者用病院」を謳っていた大分三愛メディカルセンターは、いつの間にか「中等症以上の患者」を受け入れる病院となつていた。

4床から受け入れを再開したもののは、瞬く間に満床に。行政からは当然のように病床拡大の依頼があり、数日後には、常時8床前後の患者が収容され続ける状況が常態化した。深刻なことに、症状の重さによって必然的に入院期間が長くなってしまい、患者受け入れ効率が悪化していた。

4月末、大分県医師会の理事も務める三愛会理事長・三島康典は、県医師会による緊急会見に同席した。その時すでに、今後の事態悪化

2.23	2.3	1.29	1.22	1.8	1.1	2021
県内で ワクチン先行 接種開始 (医療従事者)	県内すべての 福祉施設へ 抗原検査キットの 配布を発表	三愛 クリニック発生の 介護施設へ サポートに	大分県での 陽性者が累計 超える 1,000人を	県が不要不急の 往来自粛を開設し 対応	年末年始も かぜ外来を開設し 対応	三愛 クリニック
2.17	2.14	2.7	1.30	1.27	1.23	1.19
日本での ワクチン接種開始 (医療従事者)	世界の ワクチン接種者が 1億人を超える ファイザー製 ワクチンを 国内初の正式承認	国内初の 変異ウイルスによる クラスター発生	世界の感染者 1億人を超える 国内の死者が 5,000人を超える 超える	国内の重症者が 初めて1,000人を 超える	2度目の 緊急事態宣言を発令	世界・日本
2.1	1.29	1.29	1.29	1.29	1.29	1.29
プレハブ内のPCR検査。	大分十福での救急診療	介護施設にて 感染制御を指示する大分三愛メディカルセンターのスタッフ	大分十福での救急診療	大分十福での救急診療	大分十福での救急診療	大分十福での救急診療

9.9	9.6	8.20	8.17	8.3	7.14	7.12	7.4	6.28	6.10	6.7	5.27	5.26	5.19	5.16	5.10	5.6	2021	
9月26日まで延期	累計のコロナ入院患者が200名を超える	時短要請を開始	飲食店へ時短要請	再びコロナ専用病棟に拡充	ステージ3へ引き上げ	ステージ2に引き上げ	大分県内	72日ぶりに県内新規感染者ゼロ	感染状況	一般高齢者のワクチン接種対応を開始	時短営業を受入れ病院で延長決定	他の受入れ病院と共に注意喚起を行ったため受入れ病院で開設されることを公表	宇佐市が抗原検査センターを開設	県内で一般高齢者へのワクチン接種を開始設置(過去最大の15床)	コロナ専用病棟を設立(過去最大の15床)	時短営業の要請決定	感染状況ステータスに引き上げ	大分県内
9.9	8.20	8.5	7.29	7.23	7.16	7.12	世界・日本	6.20	6.14	5.28	5.21	6月13日まで延長決定	国内でエテル・アストラゼネカのワクチンを正式承認	宇佐市が抗原検査センターを開設	県内で一般高齢者へのワクチン接種を開始設置(過去最大の15床)	時短営業の要請決定	感染状況ステータスに引き上げ	世界・日本

過去最大の波の中、いくつかの光明を。



薄暗いコロナ病棟内で業務を続ける看護師。



病室前で抗体カクテル療法の準備を行う看護師。



一般市民へのワクチン接種。



区切られた「コロナゾーン」に入るため、防護服を着る看護師。



酸素吸入をする中等症患者の看護。



コロナ病棟の運営を検討する医師と看護師。



県内の病院や行政とのweb会議。

5月末、大分三愛メディカルセンターでも一般高齢者へのワクチン接種が始まった。数多くの業務と並行しながら、ワクチン接種を行う。明らかに「医療者」「高齢者」の感染が減少し、現場の実感として、ワクチンの効果に確かな手ごたえがあった。

高齢者のワクチン接種効果か、7月当初は若い層の陽性者ばかり。さらに月末から院内でも開始した「抗体カクテル療法」は、薬剤師も目を見張るほどの回復力を見せており。「予防」「治療」の面で、輝かしい光が差し込み始めた。とはいえ、楽観視できる状況ではない。デルタ株による家族内感染が増えることで、若年層ばかりだった陽性者の感染は、その親世代にまで伝播していく。さらに介護施設でクラスターが多発し、やはり高齢者の入院も徐々に増えていった。

9月下旬現在、第5波は県内でもやや落ちきつた。「流行と収束」。同じことが繰り返される中、病棟でも、それを支える多くの部署においても、業務の中でスタッフから笑顔が消え失せることは決してない。これもまた一つの希望の光に変えて、大分三愛メディカルセンターは、また来るコロナ禍の冬に対峙していく。

「波と波の間」。その期間が短くなっている感覚があった。7月、休む間もなく第5波の感染拡大がやってくると、新たな変異・デルタ株の脅威は、夏休みの日々を「過去最多」という言葉で覆いくしてしまった。瞬く間に更新されていく陽性者数。病院も直ちに、最大限レベルの対応に戻すことになった。

高齢者のワクチン接種効果か、7月当初は若い層の陽性者ばかり。さらに月末から院内でも開始した「抗体カクテル療法」は、薬剤師も目を見張るほどの回復力を見せており。「予防」「治療」の面で、輝かしい光が差し込み始めた。とはいえ、楽観視できる状況ではない。デルタ株による家族内感染が増えることで、若年層ばかりだった陽性者の感染は、その親世代にまで伝播していく。さらに介護施設でクラスターが多発し、やはり高齢者の入院も徐々に増えていった。

院スタッフも翻弄されつつ力を尽くし、県民・地域を守り続けている。今まで通り一般患者の疾患を診るという大前提がある中、大分市の片隅にあるこの病院が、どこまでのことをやるべきなのか、やらないべきなのか。議論は未だ尽きない。そんな現在進行形の迷いの中で、暑い夏も寒い冬も防護服を身にまとい、来院する人々を診つけてきた。日々、院内外を駆け回り、休暇は自宅に閉じこもる。コロナ病棟スタッフに至っては、常に自身の感染の可能性を考え、他のスタッフがいるフロアへ行くこともなく着替え、食事を摂り、日々まっすぐ帰路に就く。そんな中でも、努めて明るく振る舞い、患者の看護にあたってきただ。

もうしばらくは続くであろう禍の中、これからもおそらく、コロナウイルスによるさまざまな出来事が世間を惑わすことになる。「先が見えない」という言葉も、言い飽きてはいる。しかし、これまで多くの出来事が世間を経験してきた病院スタッフに、自分の苦しみを経験してきただ。多くの疲労感がないはずがない。それでも、おかげで外でも、コロナ病棟でも、それを支える多くの部署においても、業務の中でスタッフから笑顔が消え失せることは決してない。これもまた一つの希望の光に変えて、大分三愛メディカルセンターは、また来るコロナ禍の冬に対峙していく。

“専用病棟”への拡大と覚悟。

2021年のゴールデンウイークは、毎日50名前後の新規陽性者発生という異常な大型連休となつた。病院の地域連携センターへその指示があつたのは、5月1日。「可能な限り早い段階で、コロナ受け入れをフロア全体に拡大する」。一般病床と並行運用していた病棟フロアすべてを、コロナ専用病棟とする決断を下すと、その旨を即日、医師会を通じて関連医療機関へ報告した。現在入院している一般患者を、他の医療機関に受け入れもらう。いち民間の病院ですら、そこまでする必要があるのが現実だつた。「協力します。こちらに転院でかかる患者さんはいますか?」。普段連絡している病院・クリニック・介護施設から声が挙がつた。連休中にも拘わらず、退院・転院調整に駆け回る看護師やソーシャルワーカー。2週間以上かかると思われたが、病棟のベッドは通常考えられないスピードで空いてゆき、5月10日の月曜日。連休が明けるとともに、「コロナ専用病棟」はその準備を完了した。

元来あるベッドを、そのままですべて使用することはできない。感染対策ドは通常考えられないスピードで空いてゆき、5月10日の月曜日。連休が明けるとともに、「コロナ専用病棟」はその準備を完了した。

看護師やソーシャルワーカー。2週間以上かかると思われたが、病棟のベッドは通常考えられないスピードで空いてゆき、5月10日の月曜日。連休が明けるとともに、「コロナ専用病棟」はその準備を完了した。

看護師やソーシャルワーカー。2週間以上かかると思われたが、病棟のベッドは通常考えられないスピードで空いてゆき、5月10日の月曜日。連休が明けるとともに、「コロナ専用病棟」はその準備を完了した。

長らく気がかりであったのは、県内の「他の病院」の状況。病院同士の情報共有は決して活発ではなかつた。この現状を打開すべく、5月中旬、いくつかの病院長のweb会議が行われ、大分三愛メディカルセンターからも院長・森義顯をはじめ、多くのスタッフが参加した。そこで初めて確認された、各病院のリアルな現状: 数多くの県内の病院が、皆同様に危機的なラインに立つてることが判明したのだ。

コロナ最前線の病院として、大分県民に現状を伝える義務がある。会議で決まった事項の中には、「一部の陽性者受け入れ病院による『県民へのメッセージ』の発表」があつた。5月19日、大分三愛メディカルセンターも、県民への注意喚起を訴える旨をホームページに掲載した。病院はこのとき、「コロナ受け入れ病院」であることを事実上公表したことになる。他の病院の動きと共に、このことは多くの県内メディアに取り上げられた。これを契機に、県内では陽性者数が減少傾向へ転じることになる。

まつた。15床が限界だつた。第3波以上に、多くの患者がより高次の病院へ転院していく。増え続ける自宅待機者。連日、大阪での悲惨な状況が報道されている中、「大分もこうなつてしまふのでは」という想像が現実味を帯びてきた。

雪後始めて知る松柏の操、丈夫の心

いま、伝えるということ。

この一年半、当法人は大分三愛メディカルセンターを中心に、新型コロナウイルス感

染症と闘つきました。多くの医療・介護機関も同様かと存じます。さまざまな情報が飛び交う中で、私たちはこの感染症の凄まじさ、恐ろしさを誰よりも間近でみてきました。本当に恐ろしい病気です。我々が診るのは入院を要する方ばかりなので、そう思うのかもしれません。この感染症は身体だけでなく、家庭・社会にも大きな影響を与えていることを肌で感じできました。

染症はほんの僅かではあります

が、少しでも地域県民の皆さまのお役に立てればと思い、取り組んできました。

立派な経験でしたので、スタッフには大きな苦労をかけてきましたが、事あるごと、波を乗り越えるごとに達

できることにはほんの僅かではあります

が、少しでも地域県民の皆さまのお役に立てればと思い、取り組んできました。

立派な経験でしたので、スタッフには多

く、危険を悟り、一丸となって真正面からこの禍に向き合っていく彼ら、彼女

たちを誇りに思います。

通常診療も犠牲にしてまで、この禍に向き合うことにどれだけの意義があるのか。自身に間違ったことがありました。背を向け、後悔することだけはしたくありませんでした。付き合わされるスタッフはい迷惑かも知れません。ですが収束を迎えるまで、これからも皆で困難に立ち向かっていき、当たり前の日常を取り戻したいと思います。



※雪の後で初めて松柏(常葉樹)の逞しさを知る。
困難な状況になってこそ真価が見える。

ます。また、ワクチン接種が進んだことで重

症化の割合も減少傾向です。とはいっても、このウイルスは手を替え品を替え襲ってきます。問い合わせ未だ続ります。

通常診療を犠牲にしてまで、この禍に向き合うことにどれだけの意義があるのか。自身に間違ったことがありました。背を

向け、後悔することだけはしたくありませんでした。付き合わされるスタッフはい迷惑かも知れません。ですが収束を迎えるまで、これからも皆で困難に立ち向かっていき、当たり前の日常を取り戻したいと思います。

きっかけは、ある日の新聞記事でした。

コロナ対応に奮闘する大病院のインター

ビュー。センセーショナルに綴られた誌面は、医療現場の過酷さを存分に訴えていました。

大分三愛メディカルセンターはあくまで、大分市植田にある地域の病院。重症化した患者さまは、より高度な治療ができる病院に移るしかありません。それで

も、当院は地域のために真っ先にコロナに立ち向かい始め、その闘いは2カ月間に及ります。その間ずっと、苦しみもがき、涙する

スタッフたちをこの目で見てきました。医師や看護師だけではありません。目立たなくとも、褒められなくとも、病院内すべての職種が感染制御・患者さまの回復のために汗を流しています。

あの記事の大病院と比べる必要はないけれど、私たちの今までの軌跡も知つてもらえないのだろうか。「伝える」という

業務に携わる中で生まれた、そんな小さな我儘から、今回キーボードをたたき始めました。

相変わらずの混沌が続く中、今このタイミングで本誌を出すことに意味はあるのだろうか。ふと考へ、手を止めることがあります。

未だ明瞭な光の見えぬ中、当院のみならず、全国・全世界のそれぞれの人々が、それぞれの事情でこの禍に抗い続けています。きっとその「それぞれ」は、収束という目的地につながっています。

思い上がりかもしれませんのが、たった一人だとしても、この小さな発信でその矜持を支えられたのならば。

そこに意味はあると思えるのです。

大分三愛メディカルセンター
広報 秦圭治

[社会医療法人 三愛会]

大分三愛メディカルセンター

所在地 〒870-1151 大分県大分市大字市1213番地

T E L 097-541-1311

F A X 097-541-5218

病床数 190床

診療科 脳卒中センター、消化器病・内視鏡センター、運動器センター、救急外傷センター(ER)、人工透析センター、画像診断センター、リハビリテーションセンター、救急科・外科・消化器外科・心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科・大腸肛門外科・脳神経外科・整形外科・泌尿器科(人工透析)・形成外科・内科・総合診療科

専門外来受付 8:15~12:00/13:30~17:00

※診療開始時間は診療科によって異なります。

休診日 日曜日・祝日・土曜日午後

※但し、救急・時間外診療は24時間体制です。

認定施設 二次救急指定病院、大分DMAT指定病院、DPC対象病院、日本医療機能評価機構認定病院

介護保険相談センター さんあい

(大分三愛メディカルセンター内)

T E L 097-542-7409

サービス 居宅介護支援、介護予防居宅介護支援

三愛訪問看護ステーション

(大分三愛メディカルセンター内)

T E L 097-541-7007

サービス 訪問看護、介護予防訪問看護

のつはる診療所

所在地 〒870-1203 大分市大字野津原906番地の1

T E L 097-588-1311

診療科目 外科・心臓血管外科・呼吸器外科・内科・整形外科・循環器内科・リハビリテーション科

病床数 19床

サービス 通所リハビリテーション(デイケア)、介護保険相談センター

HPアドレス notsuharu-san-ai.com/

三愛呼吸器クリニック

所在地 〒870-1143 大分市田尻419-1

T E L 097-541-2588

診療科目 呼吸器内科・内科

サービス 呼吸リハビリテーション

HPアドレス kokyu-oita.com

たばるクリニック

所在地 〒870-1154 大分市大字田原字深田936番地1の1

T E L 097-541-2345

診療科目 外科・内科・消化器外科・リハビリテーション科

サービス 訪問看護ステーション

介護老人保健施設 たばる

(たばるクリニック併設)

T E L 097-542-4139

サービス 入所サービス、短期入所療養介護(ショートステイ)、通所リハビリテーション(デイケア)

グループホームたばる

(たばるクリニック併設)

T E L 097-541-5298

サービス 入所サービス

庄内診療所 2021年9月より三愛会へ加入

所在地 〒879-5421 由布市庄内町柿原280番地1

T E L 097-582-3600

F A X 097-582-3619

病床数 19床

診療科 内科・消化器内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科

介護老人保健施設 わさだケアセンター

所在地 〒870-1151 大分市大字市宇大坪11番地の2

T E L 097-541-6655

サービス 入所サービス、短期入所療養介護(ショートステイ)、通所リハビリテーション(デイケア)

HPアドレス wasada-care-center.com ※アドレスを変更しています

有料老人ホーム さんさん

所在地 〒870-1151 大分市大字市566番地の3

T E L 097-529-5580

サービス 住宅型有料老人ホーム

さんあいヘルパーステーション

(有料老人ホームさんさん内)

T E L 097-529-5582

サービス 訪問介護、介護予防訪問介護

[社会福祉法人 三愛会]

特別養護老人ホーム そうだ藤の森

所在地 〒870-1123 大分市大字寒田202番地

T E L 097-567-8822

天領ガーデン・ふれあい館

所在地 〒870-1143 大分市大字田尻高尾783-1

T E L 097-578-7122

特別養護老人ホーム 天領ガーデン (天領ガーデン・ふれあい館内)

T E L 097-574-7500

大分三愛メディカルセンター

